

授 業 科 目 名 (英 文 名)	上級マイクロ経済学 Advanced Microeconomics	単 位 数	4 単 位
担 当 者 所 属 ・ 職 ・ 氏 名	経済研究所・教授 梶井 厚志, 経済研究所・准教授 森 知也	期 間	前 期
テ ー マ	近代経済学の研究者を志す全ての修士課程1年生にとって、必ず理解しなければならないマイクロ経済学(ゲーム理論含む)の各トピックを、コースワーク形式で効率よく学ぶ。		
受 講 に つ い て の 必 要 な 予 備 知 識	学部の経済原論またはそれに相当する科目(1・2年生向け)を履修済みであることは前提とする。また、マイクロ経済学あるいはそれをういた3・4年生向けの専門科目を受けていることが望ましい。独習などにより、上記と同等の学力を身につけているのもよい。		
評 価 の 方 法	試験を2度行い、その成績を評価の基準とする。また、宿題をほぼ毎週提出させるので、その成績も加味する。		
テ キ ス ト	なし (講義ノートを用いる)		
参 考 文 献	Mas-Colell, A., Whinston, M.D. and Green, J.R., <i>Microeconomic Theory</i> , Oxford University Press, 1995. 奥野正寛・鈴木興太郎『マイクロ経済学 I』岩波書店, 1985年 その他、個別のトピックについては講義中に指示する。		
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当者各々のウェブサイトに掲示する		
授 業 計 画			
<p>全体を前・後半に分け、前半を森、後半を梶井が担当する。前半12回の講義の後、中間試験を行い、次に後半12回の講義の後、期末試験を行うスケジュールとする。細かい日程は、初回にアナウンスする。 各パートで扱うトピックは、以下のとおりである。</p> <p>[前半]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 双対性アプローチを重視した生産者の理論と消費者の理論 ・ 市場均衡 (簡単な定義のみ) ・ 簡単な一般均衡モデル: 国際貿易 (リカードモデルとヘクシャー・オーリンモデル) ・ 独占および独占的競争 <p>[後半]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 部分均衡分析: 余剰、費用便益分析、外部性 ・ 不確実性: 期待効用理論、金融資産の価格付け ・ ゲーム理論の基礎と戦略的競争: ゲーム理論の基礎、寡占、戦略的価格競争、オークション ・ 公共財: フリーライダー、費用分担と個人情報 ・ 産業組織論の基礎: 参入障壁、参入阻止、カルテルと暗黙の協調、繰り返しゲーム ・ 一般均衡理論の初歩: エッジワースボックス、厚生経済学の基本定理、均衡の存在問題 <p>上で述べたように、宿題を頻繁に出す。宿題の採点はティーチングアシスタント(TA)が行う。またTAは、TAセッションを行わない代わりにオフィスアワーを設けて質問を受け付けるので、教員のオフィスアワーとともに大いに利用されたい。</p>			